

# 第44回松戸市青少年姉妹都市等派遣 報告書

第4回松戸市青少年海外派遣



City of Santa Clarita, CA, USA

アメリカ カリフォルニア州 サンタクラリタ市

# REPORT

## 2026.3.13-20

公益財団法人松戸市国際交流協会  
松戸市文化スポーツ部国際推進課

# 内容

派遣者名簿

派遣日程表

実施記録



派遣生徒の感想文

## 松戸市青少年姉妹都市等派遣について

この事業は、派遣先の都市と松戸市との交流促進、国際感覚豊かな青少年を育成する目的で行われております。

2017年度に米国 カリフォルニア州サンタクラリタ市との交流事業（松戸市青少年海外派遣）が始まり、2022年度より（公財）松戸市国際交流協会主催の「松戸市高校生英語スピーチコンテスト」の上位入賞者の派遣を実施しております。

2025年度は、3名の高校生を派遣しました。

# 派遣者名簿

## 派遣生徒

氏名	学校名	学年 (派遣当時)
後藤 てりん Terin Goto	松戸市立松戸高等学校	高3
水谷 昌俊 Masatoshi Mizutani	千葉県立松戸国際高等学校	高3
根本 夏芽 Natsume Nemoto	松戸市立松戸高等学校	高2

## 引率者

藤田 和子 Kazuko Fujita	松戸市文化スポーツ部国際推進課
片山 麻里 Mari Katayama	公益財団法人松戸市国際交流協会



左から 水谷・藤田・後藤・根本・片山（後ろ中央はClaudia Acosta氏）

# 日程表

日付	場所	時間	内容
2026年 3/12 (木)	成田空港	14:00	成田空港第3ターミナル集合
	 ロサンゼルス	17:30	日本航空 (JAL062) にて空路、ロサンゼルスへ
		11:30	到着後、入国審査、荷物受け取り 制服に着替え ロサンゼルス市内へ サンタクラリタ市内へ
	サンタクラリタ市	14:00	昼食
		16:30	サンタクラリタ市役所訪問 (市長、姉妹都市協会役員、ホストファミリー、高校関係者と対面) ウェルカムセレモニー 宿泊 生徒：ホストファミリー宅 引率：ホテル泊
			
3/13 (金)	サンタクラリタ市		ホストファミリーによるValencia High Schoolへの送迎 授業体験・アクティビティ・ 松戸市についての英語による紹介 宿泊 生徒：ホストファミリー宅 引率：ホテル泊
			
3/14 (土) ～ 3/15 (日)	サンタクラリタ市	各自	ホストファミリーと過ごす
			

<p>3/16 (月)</p>	<p>サンタクラリタ市</p> 		<p>ホストファミリーによるValencia High Schoolへの送迎 授業体験・アクティビティ 宿泊 生徒：ホストファミリー宅 引率：ホテル泊</p>
<p>3/17 (火)</p>	<p>サンタクラリタ市</p> 		<p>ホストファミリーによるValencia High Schoolへの送迎 授業体験・成果発表 宿泊 生徒：ホストファミリー宅 引率：ホテル泊</p>
<p>3/18 (水)</p>	<p>サンタクラリタ市 ↓ ロサンゼルス市内</p> 	<p>9:15 10:00 11:00 16:15 18:00</p>	<p>Valencia High School集合 ロサンゼルスへ移動 昼食 (CAVA、ラップサンドなどを提供) ドジャーススタジアムツアー (日本語) 昼食 ロサンゼルス市内観光 ホテル・チェックイン 夕食：ホテル内レストラン (多聞) 宿泊 ミヤコホテルロサンゼルス</p>
<p>3/19 (木)</p>	<p>ロサンゼルス空港</p> 	<p>9:00 13:05</p>	<p>移動、空港へ、到着後、搭乗手続き 日本航空 (JAL061) にて空路、帰国の途へ 機中泊</p>
<p>3/20 (金)</p>	<p>成田空港</p>	<p>16:50 17:30</p>	<p>到着 解散</p>

# 実施記録

3月12日 (木)

成田空港 出発 JAL062 17:30



ロサンゼルス空港 到着 11:30頃



# 3月12日（木）

## ロサンゼルス→サンタクラリタへ



### 昼食 In-N-Out Burger

冷凍の物を使わない、契約農家の野菜を使う、などで味もボリュームも満足の人気店。バンズの代わりにサラダで巻いたものも注文できる。

15時ごろでも地元客が次々訪れていた。（ロサンゼルス地域に店舗多数）

### ウィリアム・エス・ハートパーク・博物館（William S. Hart Park and Museum）

1920年代に無声映画の俳優であったウィリアム・S・ハート氏の邸宅（敷地の丘の上にある）と庭園（公園、ミニ動物園）の見学。広大な敷地はトレイルコースにもなっています。博物館が現在休館中の為、外観と庭園を見学しました。



3月12日（木）

サンタクラリタ市到着 16：30



## サンタクラリタ市役所経済開発部によるフィルム倉庫の紹介

ハリウッドに近いこともあり、サンタクラリタはフィルム産業が盛んで、映画やTV、ネットフリックス、コマーシャルなどほぼ毎日市内のどこかで撮影が行われているそうです。この倉庫には、撮影で使用された小道具や関連ポスターなどが置かれていました。



## ウェルカムセレモニー



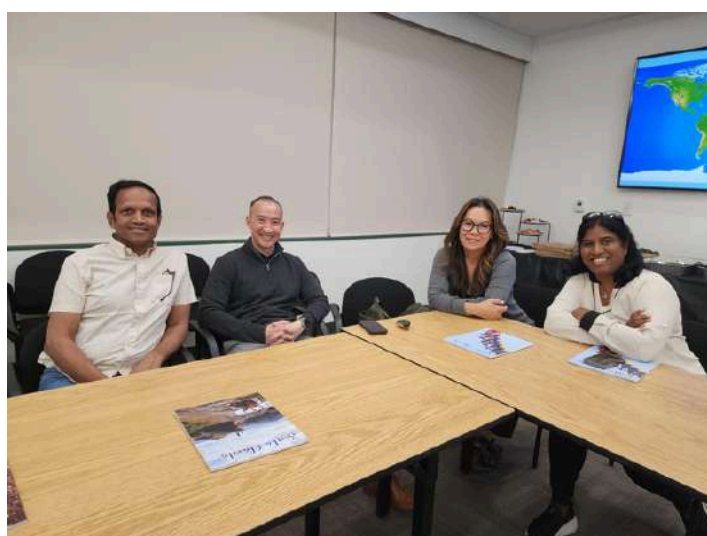
Laurene Weste (ローレーヌ ウェスト) 市長 (写真左) より、派遣生徒と今回の受入校であるバレンシア高校のホストスチューデントに「訪問証明書」が授与されました。また、松戸市と松戸市国際交流協会より、親書やお土産をお渡ししました。



Nguyen Family (Abey & Lucas)&後藤さん



Nunez Family (Evangeline)&根本さん



ホストファミリーの方々



Grandhe Family (Abhi & 弟さん)&水谷君

## ウェルカムパーティーの出席者：

Laurene Weste市長、

David LeBarron氏（ウィリアム・S・ハートユニオン高校学区カリキュラム＆アセスメント部長、  
写真後列中央）、

サンタクラリタ姉妹都市協会理事：

Claudia Acosta氏（理事長、写真前列右から2番目）、

Tyler Pledger氏（副理事長、市職員、写真前列中央）、

Jocelyn Reyes氏（書記、写真中列左から2番目）、

Elena Galvez氏（会計、国際姉妹都市協会州代表、元市職員、写真中列右端）、

Tess Simigen氏（前会長、元市職員、写真前列左端）、

Kim Buckly氏（写真前列左から2番目）、

Ashley Gurrola氏、

Lupe Lopez氏（写真前列右端）、

Marina Nuez氏（根本さんのホストマザー、写真中列左端）

ホストファミリー、ホストチューデント



←サンタクラリタ姉妹都市協会（Santa Clarita Sister Cities Program）理事長の、Claudia Acosta（クラウディア・アコスタ）氏による同協会の紹介がありました。



歓迎セレモニーのあと、軽食をとりながら歓談しました。生徒達はそれぞれホストファミリーと一緒に帰宅しました。



地元紙“The Signal”より生徒達への取材があり、紙とweb版に掲載されました。



# 3月13日（金）

生徒：授業（ホストスチューデントの取っている授業と一緒に参加）  
引率：高校訪問（次回以降の派遣先候補高校の視察）

## ①カスタイク高校（Castaic High School）9：00



↑3月は大学など進路が決まり始める時期で、決定した進学先や進路が掲示されていました。

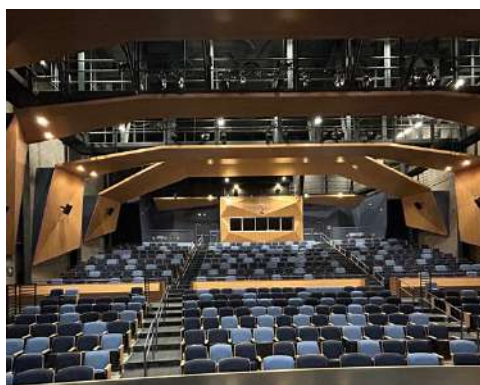


↑スクールマスコットはコヨーテ



↑Ben Wobrock（ベン ウオブロック）校長（中央）の教育理念は“Work Hard, Be Kind”

## ②ソーガス高校（Saugus High School）



↑本格的な設備を備えた校内の劇場。車いすと付き添いの方にも対応したスペースが設置されています。



↑スクールマスコットのセンチュリオン像

←この日は、「Happy Friday」として、Genevieve Peterson-Henry（ジェニヴィーヴ・ピーターソン=ヘンリー）校長（写真左）が、スナックや飲み物のワゴンを引いて各教室を回り、教師たちをねぎらっていました。（3月は特に忙しい月だからとのこと。）

## アメリカの高校のセキュリティなど・・・

今回3つの高校を見学しましたが、全て警備が厳しく、生徒も校門でIDチェックをしてから入っていました。数名の警備員が巡回していました。

どの学校にもカウンセラー室が複数あり、気軽に訪ねられる雰囲気でした。また、障害のある生徒も同じ高校に通学し、特別学級ではなく通常の授業に参加しているそうです。



# 3月14日（土） 3月15日（日）

## ホストファミリーと過ごしました

ホストスチューデント、ホストファミリーと一緒に“Disneyland”や“Universal Studios Hollywood”に行ったり、“America’s Got Talent”（スター発掘のオーディション番組で全米で非常に人気があり、世界的にも大変広く知られている）をスタジオで生で見学するなど、アメリカならではの貴重な体験をしました。



後藤さん



水谷君

↑「America’s Got Talent」のホスト Simon Cowellと記念写真！



↑関係者とホストファミリーが知り合いだった (!! ) ので、VIPの入場許可証がもらえました！

水谷君と後藤さんのホストスチューデント同士が親友なので、学校や週末を皆ですごしました。



根本さん

ユニバーサルスタジオに連れてっていただき、ユニバの乗り物でめまいがしてしまいその後何も乗れなかったけど、その間にも私を心配して通りすがりの女性がスナックをくれたり、ホストマザーが帽子を貸してくれたり、ホストシスターは私が楽しめるようにマック（PC）で私が乗れそうなところを探してくれました。とても嬉しかったです。とってもやさしいのだと感じたし、感動しました。



↑ロサンゼルス市内のショッピングモール

# 3月16日（月）

## 派遣生徒：バディと一緒にValencia High Schoolの授業に参加・松戸&日本についての紹介

「松戸の見所や名物の紹介」（根本さん）・「日本の遊びの紹介（射的体験）」（後藤さん）・「高校生の一日の様子を紹介（動画）」（水谷君）の3部構成で、交代で行いました。射的の体験では、当てた生徒に景品を渡しました。高校生の様子の動画は、生徒はもちろん、学校・教育委員会、姉妹都市協会の関係者も「私たち（アメリカ）と同じ！」と、とても興味深く見ていました。



生徒会の皆さんが名前のボードを持ってお出迎えしてくれました。



手作りの割りばし鉄砲による射的の体験に希望者殺到！



ホストスチューデントも紹介しました。



Kullen Welch (カレン・ウェルチ) (右) に、松戸市と松戸市国際交流協会より親書とお土産をお渡ししました。

## 引率職員：市内施設の見学など

### ・ ESL (English as a Second Language) の授業に参加 (9:00-11:00)

カレッジオブザキャニオンズ (College of the Canyons) 内のユニバーシティセンター (University Center) で、外国人向けの英語の教室に参加しました。



### ・ 市内施設の見学 (午後)

- サンタクラリタスポーツセンター (George A. Carvalho Sports Complex) : バスケットボール、バレーボール、ピククルボールなどに市民が利用できる。
- ローラースケート場 (The Rink Sports Pavilion) : 建設中 (2026年夏完成予定)。カフェや観客席も併設予定。
- スケートボード場 (屋外) : だれもが自由に利用できる
- プール施設 : オリンピック基準のプール、ダイビングのできるプールや遊具のあるプール (夏は貸し切りもできる) がある。
- スケートリンク「ザ キューブ」 (The Cube) : オリンピック公式サイズ、アイスホッケー公式試合サイズ、小さめのサイズの3つのスケートリンクがあり、カフェやバー、貸し切りのイベントスペースが併設されている。



### ・ 経済部による説明

- 国(アメリカ合衆国)→州(カリフォルニア州)→郡(ロザンゼルス群)→市 (サンタクラリタ市)
- 議会 (市長、副市長 (次期市長)、議員3名の計5名)
- 人口225,000人、1万以上の事業所、平均世帯年収13万9千ドル、住民の72%が「大学教育を一部でも受けているかそれ以上」
- ロザンゼルス群で「最もビジネスにやさしい街」として評価されている。(電子サービスの導入や、ワンストップの許可センターなど)
- 経済の主な4つの柱 : ビジネス支援・スポンサーシップ・映画産業 (撮影やイベントを誘致する環境が整っている)・観光
- サンタクラリタ市内では、様々な映画やドラマが撮影されている (例 : 「タイタニック」「ラ・ラ・ランド」「ワン・バトル・アフター・アナザー\*」)



\*2026.3のアカデミー賞作品賞を受賞



# 3月17日（火）

## 派遣生徒：バディと一緒に授業に参加・修了証贈呈・振り返り



サンタクラリタ姉妹都市協会より、生徒、ホストスチューデント、引率、学校関係者に感謝状（今回の派遣に参加したことへの感謝、世界により良い影響を与えることを期待している、という文面）が贈呈されました。



生徒からひとつ言ずつ、今回の成果や学んだことなどを述べました。

姉妹都市協会のクラウディアさんが、「今回の体験を一つの言葉で表現してください」というと、松戸の生徒からは「Big」「Interesting」という言葉が出ました。

### 今回の受入校：Valencia High School 進路実績とキャリア教育に力を入れる総合高校



体育館



スクールマスコットは、バイキング、スクールカラーは紫&金

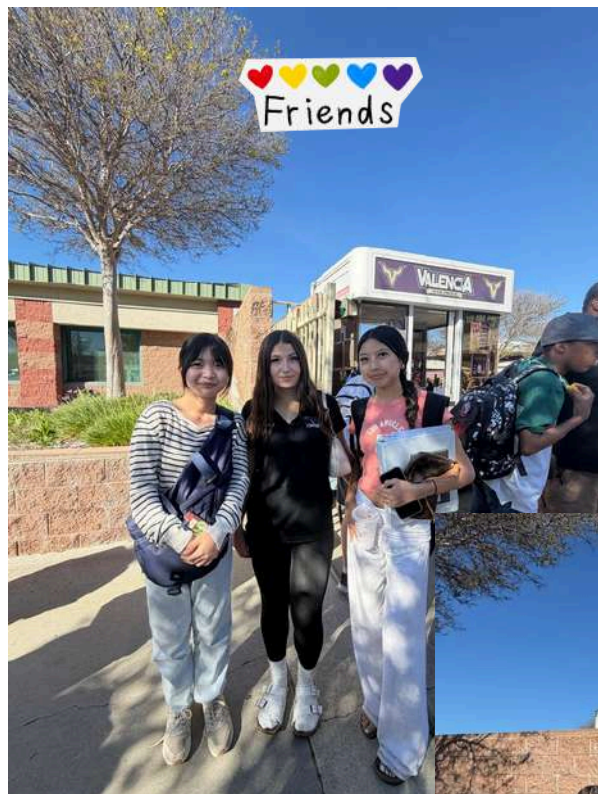


医療系プログラムが整い、実習室には、進路情報やイベント情報も共有されるスペースがある。

# 3月18日（水）

## Valencia高校にてお別れ

ホストチューデントやホストファミリーが送ってきてくれました。  
数日間の滞在でしたが、たくさんの友達や知り合いに囲まれて、お別れを惜しんでいました。



# 3月18日（水）

## ロサンゼルス市内へ

### 昼食：CAVA

ラップサンドやサラダ・サフランライスの入ったボウル  
(写真)を提供する店



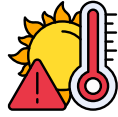
## ドジャースタジアムツアー

日本人ガイドによる日本語のツアーに参加しました。公式ショップは改装のため閉店中でしたが、ドジャースの歴史や、過去に活躍した選手や日本人選手の話などを詳しく聞き、ベンチ（敵側）やマウンドにも入りました。



# 3月18日（水）

→滞在中は、36度前後の暑さが続きました。

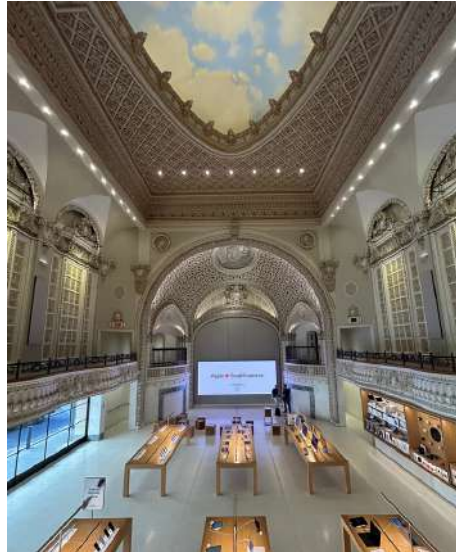


↑ニュースでは市民が暑さを避ける為に利用できる施設やサービスが紹介されていました。

## ロサンゼルス市内散策



↑ The Last Book Store (新品と中古品を併せて販売する書店で、本で作ったオブジェなどが至る所にある。)



↑ Walt Disney Concert Hall

←アップルストア（古い劇場を再利用）



↑ Angels Flight (エンジェルス・フライト) 短いケーブルカー、1901年開通



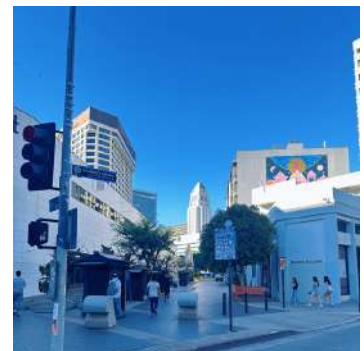
↑ The Grand Central Marketの店 (寿司などを提供)

## ホテルチェックイン 16:15

宿泊：ミヤコホテルロサンゼルス

日系ホテルで、大谷翔平の壁画がある。(二次元コードで読み込むと、音声流れ動画が映ります。)

リトルトーキョーに隣接し、周囲はラーメン店などで賑わっています。



## 夕食 18:00

ホテル内のレストラン「多間 (たもん)」にて  
メニュー：ハンバーガー



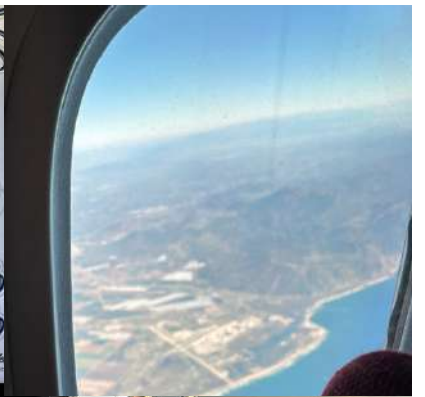
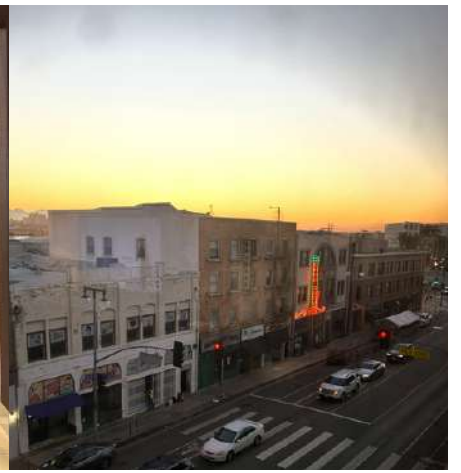
3月19日（木）

帰国

ホテルチェックアウト・  
空港へ 9:00

ロサンゼルス空港出発

JAL061 13:05



3月20日（金）

成田空港 到着 16:50頃



無事、全員元気に帰国しました。お疲れさまでした！



# 派遣生徒の感想文



# 実際にアメリカに行って気づけた日本との違い

後藤てりん

今回のアメリカ留学では、日本とのさまざまな違いを実際に体験することができました。特に印象に残っているのは学校の環境です。アメリカの学校は日本の学校に比べて敷地がとても広く、建物も一階建てのものが多くことに驚きました。日本の学校は土地が限られているため建物が高く作られていることが多いですが、アメリカでは広い土地を使った開放的な学校が多く、とても新鮮に感じました。

また、学校生活の自由度の高さも印象的でした。日本では制服や校則があり、ある程度決められたルールの中で生活していますが、アメリカでは服装や髪型などがとても自由で、生徒一人ひとりが自分らしさを大切にしているように感じました。さらに授業中も、発言することを恥ずかしがる雰囲気がなく、みんな自信を持って積極的に意見を言っていました。その様子を見て、自分の考えをはっきり伝えることの大切さを学びました。アメリカの高校は自由度が高い分、勉強するのも自分次第という面があるのではないかと感じました。そのため、生徒たちはとても自主的で積極的に行動しており、同い年とは思えないほど自立しているように見えました。

私は以前、学校のプログラムでオーストラリアに留学した経験があります。その時、相手の言っていることがよく分からないのに、とりあえず「Yes」と答えてしまい、少し困った経験がありました。その反省を活かし、今回は分からないことがあればそのままにせず、「もう一度教えてください」や「その単語はどういう意味ですか」と積極的に聞くように心がけました。そのおかげで、学校ではなかなか学ぶことができない若者が使うスラングなど、さまざまな英語表現を知ることができました。

今回のアメリカ留学を通して、私は「もっと英語を話せるようになりたい」という気持ちが強くなりました。ホストファミリーの言葉をもっと理解し、自分の思っていることをしっかり伝えられるように、これからも英語の勉強を続けていきたいと思います。そして、いつかホストファミリーが日本に来てくれた時には、たくさんのおもてなしをして、今回お世話になった感謝の気持ちを伝えたいと思います。



# アメリカ派遣を通して学んだこと

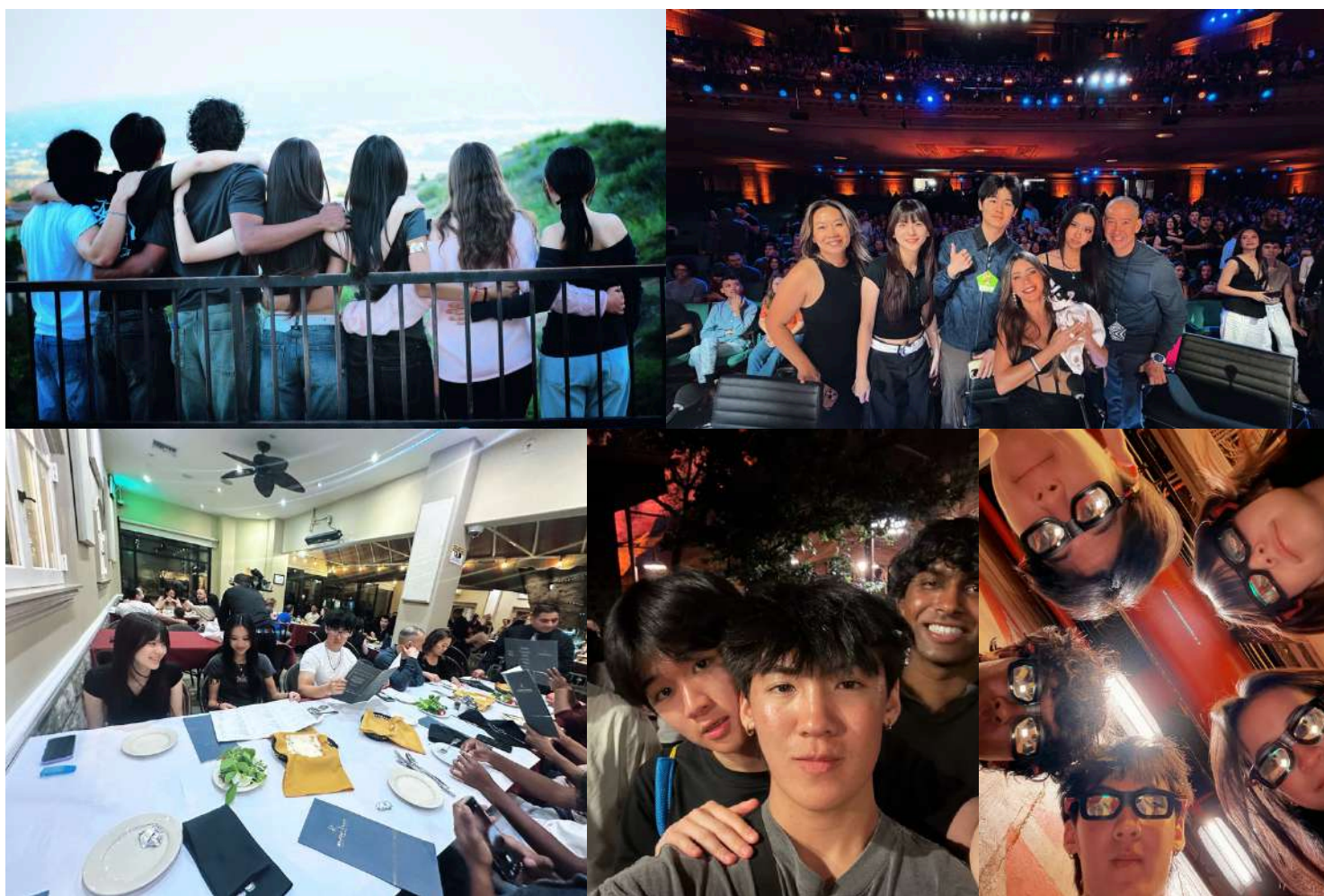
水谷昌俊

今回のアメリカ派遣は、私にとって非常に貴重で、忘れられない経験になりました。出発前は、現地の学校生活や人々との交流に対して大きな期待がある一方で、自分の英語がどこまで通じるのかという不安もありました。しかし、実際にアメリカで過ごしてみると、不安よりも新しい発見や学びの方がはるかに大きく、毎日が刺激の連続でした。

特に印象に残っているのは、アメリカの高校の雰囲気です。授業中の空気や休み時間の過ごし方、生徒同士の距離感など、日本の高校とは異なる点が多く、とても新鮮に感じました。休み時間になると、生徒たちが自然に集まり、自由に会話を楽しんでいる姿が見られ、学校全体に明るく開放的な雰囲気がありました。また、さまざまな背景を持つ人たちが一緒に学び、互いの違いを自然に受け入れている様子を見て、多様性を尊重することの大切さを強く感じました。

生活面でも多くの発見がありました。食べ物の種類がとても豊富で、タコスやブリトーなど、日本では普段あまり食べる機会のないものを実際に味わえたことも印象に残っています。さらに、街並みや家の大きさ、道路の広さなど、日本との違いを肌で感じる場面が多く、異なる文化の中で生活する面白さを実感しました。

今回の派遣を通して、私は将来についてもより深く考えるようになりました。実際にアメリカで生活し、現地の空気に触れたことで、将来もう一度アメリカで学びたいという思いがさらに強くなりました。同時に、自分の考えをもっと正確に伝えられるよう、英語力を今まで以上に伸ばしたいとも感じました。この経験を一度きりの思い出で終わらせず、これからの勉強や将来の目標につなげていきたいです。



# 自信をもって堂々とすることの大切さ

根本夏芽

私はこの9日間の研修で、「自信をもって堂々とすることの大切さ」を学ぶことができました。「堂々とする」ことができるのは「自信がある人」ができること、アメリカに行く前の私はそのように考えていました。しかし、アメリカでは、「自分の伝えたいことをはっきり言う」、相手優先ではなく、自分を一番大事とする世界が広がっていました。その世界は日本人の「空気を読む」世界とはかけ離れているように感じました。私がそのように考えるようになったきっかけとなる2つのエピソードを紹介します。

1つ目のエピソードは、「自分の意見をストレートに言えず話がこじれた話」です。私が体調が悪く、唯一食べれそうなのが日本のラーメンだった際に、ホストファミリーにとって日本のラーメン屋は近くにはないため、ハードルが高いと思い、「日本のラーメンが食べたいけど、スープでも食べれる」と伝え、他にも代替案を出すと、「本当は何が1番食べたいの？ちゃんとしたいことはいうべきです。」とホストファミリーは言ってくれました。そして日本のラーメンを買ってきてくれたのです。私は沢山お礼を言いました。それから私は自分がやりたいことを提案して却下された時に代替案を出すようにしました。

2つ目のエピソードは「無意識に人の目を気にしていた話」です。日本では人の目を気にし、好きな格好ができずにいました。しかし、アメリカでは全ての人自信を持ち、自分の好きな格好をし、堂々として輝いて見えたのです。私はアメリカで初めて自分のしてみたかった服装を着て、ちゃんと自分になれた気がしました。

1つ目と2つ目のエピソードを通して、日本の「空気を読む」とは「自分を押し殺す」ではなく「自分の気持ちも人の気持ちも大切にする」というのが本当のあり方のように感じます。





# City of SANTA CLARITA

City of Santa Clarita, CA, USA

アメリカ カリフォルニア州 サンタクラリタ市

サンタクラリタ市は、アメリカ合衆国南部のカリフォルニア州のロサンゼルス市中心街から車で約1時間の56 km北西にあり、サンタクラリタ・バレーの大半を占めています。1987年にキャニオンカントリー、ニューホール、ソーガスおよびバレンシアなど幾つかの地域社会が合併することで、市制が布かれました。

カリフォルニア芸術大学や大規模な遊園地「シックス・フラッグス・マジック・マウンテン」がある街として知られているほか、新築住宅などが著しく増加している街でもあります。

また、映画産業が盛んであることから、多くのテレビ・映画のロケ地となっています。

【参照】Wikipedia



CALIFORNIA